

大在地域まちづくりビジョン フォローアップ会議 通信 第2号

発行：令和3年3月1日 大在地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の目的

市内13地域において、それぞれの地域が目指すまちの将来像の実現に向けた取り組みをまとめた「地域まちづくりビジョン」(平成30年7月)が策定され、市長に提言されました。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため「地域まちづくりビジョン」に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」のそれぞれのテーマにおいて、進捗状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。

第2回大在地域ビジョンフォローアップ会議

■令和2年11月12日(木)14:00～

■大在市民センター会議室

開会

1. 委員・自己紹介
2. 会長・副会長選任
3. 会長・副会長あいさつ
4. 議事

- (1)地域まちづくりビジョンについて
- (2)地域まちづくりビジョンフォローアップ会議について
- (3)会議の公開について
- (4)地域まちづくりビジョンに掲げる事業の進捗について
- (5)意見交換

閉会



◆ビジョンに掲げる事業の取組み状況及び意見交換(抜粋)

会議では、事務局から大在地域まちづくりビジョンに掲げる全ての事業の取組み状況を説明し、それを元に意見交換を実施しました。本通信では、そのうち主な内容について以下のとおり報告します。

●提言1『教育を核としたまちづくり』(教育・福祉)

【事業の取組み状況】

(行政)・大在東部地区小学校開設に向けて、令和2年度より予算化し、PFI等導入可能性調査を実施中。

- ・大在中学校グラウンド拡張については、令和2年度中に土地購入や造成等を行い、令和3年度より供用開始予定。
- ・大学生など地域の団体と子どものふれあいの場を提供するため、学校の余裕教室を活用した体験活動等の場を継続的に提供している。
- ・高齢者が子ども及びその親、学生等と一緒に食事や宿題のほか美化活動等を行うことで、多世代交流を行う「地域多世代ふれあい交流事業」により支援を行う。

(地域)・大在東部地区に新小学校開設が決定されたことにより、大在東部地区小学校開設促進期成会を設立し、通学区や学校整備に係る地元要望の協議を行った。

- ・新小学校の校舎等を避難場所として利活用が見込める状況となったことを受けて、総合文化(スポーツ)施設の建設については、新小学校の活用や公民館の改修で代替できないか検討していく。
- ・中学生を対象として、自治公民館等を活用した学習(宿題等)する場の開設を検討していく。そこで子ども食堂(軽食の提供)の機能も兼ね、学習サポートには学生や教員OBが担い、軽食の提供は地域の住民が行うものとした。開催頻度や時間帯等のニーズについて、保護者から聞き取りを行い、活動の参考とする予定である。



大在東部地区小学校建設予定地

●提言1『教育を核としたまちづくり』(教育・福祉)～続き～

【会議で出された意見等】

- ・新小学校開設による通学区の見直しにあたり、自治区単位で考えるだけではなく、近くにある学校に通えるような「子ども目線」から違和感のない通学区再編をしてほしい。
- ・大在東部地区小学校開設促進期成会では、地区全体の通学区の見直しや新小学校の体育館に避難所機能を持たせること等の新小学校建設に関する要望事項の取りまとめが済み、今後は出来る限り要望事項が実現できるように市に働きかけを行っていきたい。
- ・新小学校開設にあたり、総合文化(スポーツ)施設の機能を加味して、従来のものではなく、体育館のステージの規模を大きくするなどの視点で検討してもらいたい。



●提言2『人を呼び込むふるさとづくり』(産業・福祉)

【事業の取組み状況】

(行政)・「企業立地推進事業」での企業誘致活動による雇用の創出、地域の中小企業育成のため設備投資や販路開拓等に対する支援及び「子育て・高齢者世帯リフォーム支援事業」により三世同居のための住宅改修支援等により、生活基盤の確保に向けた取り組みを行う。

・「若者が帰ってきて住み続けるまち」の実現のため、地域の意向を確認のうえ、「地域まちづくり活性化事業」により支援を行う。

(地域)・観光スポットの整備やボランティアガイドの育成、ホームページの開設等SNSや観光マップを活用して、大在の魅力を発信することで、若者にとって仕事があり、活気あり、生きがいがある住み続けたいまちを創出する。

・知られていない価値ある史跡等の大在の魅力を伝える機会をつくるため、「文化財研究会」等の郷土史に詳しい方の講演会を開催する。



【会議で出された意見等】

- ・大在地域で、モノをつくり、それを維持、成長させる「循環型社会」を作りたい。そのためには人材が必要となり、若者が帰ってきて住み続け、家庭で3世代が一緒に暮らせる社会を作るため、雇用の創出が必要となるが、大在では県用地である6号地において企業の誘致が進んでいる。
- ・大在のモノ(ブランド)づくりとして、例えばコスモスまつりで提供している大在鍋の商品化や大在のミカンを活用したゼリーやようかん等の加工品の開発を進めたい。
- ・大在の価値ある史跡や海岸沿いの工場群等の観光資源を活用したウォーキングツアーやバスツアー等により、大在の魅力を知らせ、観光のまちづくりに賛同する人づくりを行いたい。

●提言3『防災機能の向上と自然環境との共生』(防災・都市基盤・環境)～裏面へ続く～

【事業の取組み状況】

(行政)・大在公園や緩衝緑地への野外ステージやバーベキューエリアの整備については、要望内容を把握し、地域の必要性を確認するため、地元と協議を行う。

・舞子浜緑地は緩衝緑地帯として整備されており、自然的空間を利用しやすいように、樹木の剪定を実施し、除草については地元団体の協力を得る中で維持管理を行っている。

・自転車通行空間の整備に関しては、令和2年度に大分市自転車走行空間ネットワーク整備計画の改定作業に着手し、改めて整備路線の選定等を行う予定である。



『ふれあい市長室～あなたの地域のまちづくりビジョン』

今年度は、地域でまちづくりビジョンに関連した活動を行う団体を対象に開催いたしました。

大在地域の対象団体：「舞子浜リビングプロジェクト」

開催日：令和2年11月26日(木)

内容：舞子浜緑地での清掃活動とイベント開催についての活動報告及び意見交換を行いました。

※大在地域の3つの提言、12の事業名については裏面をご覧ください

◆ビジョンに掲げる事業の取組み状況及び意見交換（抜粋）

●提言3『防災機能の向上と自然環境との共生』（防災・都市基盤・環境）～続き～

【事業の取組み状況】

（地域）・災害時に学生の協力を得られるよう「Ozai 元気クラブ」や「留学生と交流を進める会」が交流の中心となり、文理大生と日頃から顔見知りになるような取組みを推進する。

- ・大在地域全体での防災士の組織化を目指し、防災講演会や避難訓練等のイベントを開催し、防災士同士のつながりが持てる活動を行う。
- ・将来的な大在公園のあり方や地域振興の拠点づくりについて、講演会やシンポジウムの開催を通じて、地元の合意形成を図る取組みを進める。
- ・緩衝緑地帯をはじめ大在地区内において、地区住民がいこい、気軽に散策できるようパーベキューエリアの設置について検討する。
- ・サイクリングに特化した活動だけではなく、大野川河川敷から緩衝緑地帯、及び大在公園を一体で活用できるイベントの開催を模索し、サイクリングロードの整備等将来の大きな目標を掲げた活動を展開していく。



【会議で出された意見等】

- ・災害時に学生の協力を得る事業では、まず地域と学生が交流を持ち、顔見知りになることが必要であり、そこから協力できる学生と地域との組織づくりができると良い。
- ・大分市中心部の公園の下に防火用の貯水槽が設置されているが、大在地区の公園にもこのような貯水槽の設置を進めてほしい。
- ・災害時には、水と火の確保が重要になるため、地区に残っている井戸を行政と地域で整備できると良い。また、避難所や公園などにガスが利用できる設備の設置も必要である。
⇒回答（市）：災害時の市民開放井戸（生活用水）について、新たな要望に応じて管理者と調整してまいります。また、ガスについては、避難所となっている学校に災害用のガスバルクの設置に取り組んでいます。
- ・活用していないため池は、災害の原因となる可能性があるため、計画的に埋め立てていくと土地の有効活用に繋がる。
⇒回答（市）：ため池の廃止には、地権者や水利権者または土地改良区等の同意や行政機関との治水計画の協議等が必要となります。
- ・大在公園への野外ステージ整備等をどう提案していきたいのか地域で検討する際、地域の取組みとして『舞子浜リビング project』のように実績を積み、実績に基づいた具体的な提案が必要である。
- ・緩衝緑地帯は現在の幅から狭くしたり、樹木を伐採したりできないのだろうか。
⇒回答（市）：舞子浜緩衝緑地は、防風保安林に指定されており、面積を減らしたり、間伐する場合は県との協議を経て許可を得る必要があります。
- ・自転車によるまちづくりは各地で盛り上がり、大野川周辺でもサイクルイベントを開催しているが、より大きな視点から盛り上げていくためには、大在を拠点として佐賀県までの豊予海峡を望むサイクリングロードが出来ると良い。
- ・温泉がある観光スポットや休憩や宿泊が出来るスポット等を整備し、史跡等の情報も併せて掲載したサイクリングロードマップを作成する。また、スマホ式の案内ガイド等によりサイクリングロードマップを提供し、大在地区全体を案内するシステムが作れると良い。



『舞子浜リビング Project』のイベント

◆今後の予定

今回のフォローアップ会議により、現時点での提案事業ごとの進捗状況の確認ができましたので、今後は大在地域の防災、文化、スポーツ等地域交流施設として期待されている小学校開設事業と併せてその他事業においても、引き続き市民と行政で更なる意見交換や具体的な検討を行い、大在の将来像の実現のための取組みを進めて参ります。

大在地域まちづくりビジョン【提言】

平成30年7月策定

＜提言1＞ 教育を核としたまちづくり（教育・福祉）

子育て世代や隣接する日本文理大学の学生が多く居住していることで、若年層の割合が高く、地域の活力となっている。この若年層を取り込んだ各種事業を構築することで、大在の元気をより推進するまちづくりが必要です。また、将来の人口増を見据えた教育基盤の充実や子どもと高齢者の居場所づくりなど、安全・安心な環境・仕組みづくりが求められます。
（提案事業）1、2、3、4、7

＜提言2＞ 人を呼び込むふるさとづくり（産業・福祉）

本地域には、今後も人口の増加が見込まれ、若年層の割合も高い地域であるが、同時に地域コミュニティの希薄化が進行しています。新旧の住民がより住みやすい環境整備のため、地域行事による住民交流の促進や企業誘致、中小企業の成長促進等による生活基盤の確立を行うとともに、大在地域の魅力を向上、発信していく必要があります。
（提案事業）2、7、8、9

＜提言3＞ 防災機能の向上と自然環境との共生（防災・都市基盤・環境）

山、川、海に面した地域であることから、地域全体で取り組む防災対策や防災機能を持った公共施設整備など、ソフト・ハード両面において防災機能の強化、推進を図る必要があります。一方で、その自然特性を生かす事業を推進し、新たな地域資源を創出することで、地域内外の交流を促進するまちづくりをすすめていくことを望みます。
（提案事業）3、4、5、6、9、10、11、12



『提言に基づく事業提案と概要』

事業番号	事業名	概要
1	大学生が動けるようなコミュニティ事業	・大学生と地域の子どもや大人とのふれあい（コミュニティ）の場をつくる 等
2	高齢者と子どもが一緒に集える場づくり	・共働きの家庭が多く、子どもが一人である時間が長いので、地域の子どもと高齢者が集える場所ができればよい 等
3	学校施設の整備	・大分市東部に小学校を建設する ・大在東部地域の避難場所が必要 等
4	大在の南側高台に総合文化（スポーツ）施設を整備	・避難場所、文化、スポーツ施設が無い ・津波からの避難場所という観点からも大在の南側に整備してはどうか 等
5	災害時などに文理大生の協力を得る事業	・日本文理大学の学生に自然災害発生時、手助けしてもらえる組織をつくる 等
6	先進的・地域密着型防災組織づくり	・大在地域全体の防災士会を設立し、定期的に会議を開催する ・災害時の生活、防火用水等確保のため、災害用井戸の普及等に取り組む 等
7	ふるさと魅力づくり事業	・若者が帰ってきて住み続けるまち ・多世代交流ができるイベントや場所の創出 等
8	平成のまち大在の観光事業	・道の駅を整備したり、バスで南日本造船（三井造船）や文理大学の見学に回れるようにする 等
9	自転車（サイクリング）を活かしたまちづくり	・大在商工青年部が春にサイクリングのイベントを実施しているが、このようなイベントを推進したい 等
10	イベント広場（ステージ付きの公園など）の整備	・大在公園にステージを設置して音楽など様々なイベントに利用できるようにする 等
11	緩衝緑地帯（松林）の整備事業	・緩衝緑地帯（舞子浜緑地）に大人や子どもがふれあえる場所を整備する ・散策しやすい歩道、松林を活かした遊具の設置 等
12	河川（江川）、海岸線、ため池の有効活用	・大在の地理的環境を活かして、江川に遊歩道の整備や昔の海岸線が残っている部分を活用し釣り場を整備するなど、親水事業に取り組む 等